



市議会だより

おうしゅう

2月臨時会

特別号



臨時会で調査結果を報告する佐藤委員長

百条委員会報告書

万年の森残土問題

不適正事務処理で市に損害

臨時会、全会一致で可決

奥州市議会臨時会を平成29年2月8日に開催し、奥州万年の森における太陽光発電事業に関する調査特別委員会（通称・百条委員会・佐藤洋委員長）がまとめた調査報告書を全会一致で可決。不適正な事務処理で市に損害を与え、市長の責任は重大と指摘した。

真相究明に特別委員会設置

前沢区字石田地内「奥州万年の森公園」において、民間事業者による太陽光発電事業（事業面積53・7ha、想定年間発電量17、214MWh、一般家庭4、800世帯分の消費電力相当）に係る土地造成工事が展開されていた。その施工地内に平成23年2月に完成した奥州金ヶ崎行政事務組合の「一般廃棄物最終処分場」建設工事の際に発生した土砂約12万㎡が山積みされており、この土砂の処理が問題となっている事態が平成27年6月定例会における一般質問において、

明らかにされた。

この土砂は当初、当該最終処分場の覆土として使用するほか、公共事業用地に使用するという名目で、市と行政組合の申し合わせにより一時仮置きされていた。しかし、最終的に、いつ、だれが、どのように処理するかが明確に示されず、太陽光発電事業着手に伴い、支障となるこの土砂の撤去・移動、経費負担をめぐって関係者が協議中との市側の説明であった。